

のだ哲生

vol.11

NoDa Report (県政報告)

野田哲生
議会活動レポート第11号
2022年10月20日発行

今回のテーマは、
「**ふく育県**」
としての

子育て環境の充実に向けて!

子育て充実に向けた 9月補正予算 成立



子育てパンフ

187,240千円

1 「ふく育県」PRキャンペーン事業

首都圏へのTVCM等を活用し、首都圏を中心に「ふく育県」のイメージを定着させ、子育て世帯の移住・定住を促進して出生率の向上を図る

118,392千円

2 不妊治療費助成等事業

自己負担額が最大6万円となるよう、治療に対する自己負担分の一部を助成

ごあいさつ



6月、9月議会は**県内の子育て環境**をテーマに、高校生までの子育て世代の保護者の方から意見を聞かせていただき、様々な視点から質問・提言をさせていただきました。

県は、社会全体で妊娠・出産・子育てを応援する機運を醸成するため、昨年10月から「ふく育」応援事業をスタートしましたが、今回の9月補正予算では、県外に向けたテレビCMや移住定住への相談イベントなどに約1億9千万円を計上し、イメージ戦略から移住に繋げようとしています。待機児童ゼロの保活不要というキャッチコピーや、第2子の保育料無償化の対象世帯の拡充など、都市部の子育て環境に比べればアピールポイントになりますが、他の地方都市も独自の施策を都市部に向けPRしているため、同じ土俵で競争しているイメージがあります。

県は、こども一人あたりの行政経費は全国1位であると強調していますが、経費の面だけでなく、本当に子育てしやすい環境であることを県民が実感できる状況には至っていないのではないのでしょうか。9月議会の一般質問では、こういった点について、実態を示しながら指摘させていただきました。



杉本知事の2月の記者会見

令和4年度から始まっている子育て関連予算

- ① 年収640万円未満の世帯で第2子以降の保育料を無償化(令和4年9月～)
- ② 全天候型の子どもの遊び場整備、改修に要する費用を市町に助成
- ③ 男子トイレのおむつ交換台の設置費用等への支援
- ④ 保育士等のトライアル就労に要する経費への支援

子育てに関する

緊急 アンケート



期間 2022年11月25日まで

のだ哲生事務所

〒918-8031 福井市種池町3-36
E-mail: tkannoda@gmail.com

▼一度見てくださいね。

のだ哲生
オフィシャルHP



公式LINE
(お知らせ用)



FB
(日頃の活動)



9月定例会 代表質問

問い 保育施設における保育士配置基準の見直しの必要性をどう認識しているのか。また、市町の要望等を踏まえ、保育士の増員するための支援の拡充を検討すべき。



9月定例会 一般質問

問い 県は、育児・介護休業法の改正（10月1日～）による産後パパ育休等の制度を踏まえ、「ふく育県」として県全体の男性の育児休業取得率や取得日数を引き上げるべきだが、どのように意識と数値を高めていくのか。

答(健康福祉部長) 保育士の配置基準は長い間、現在の水準が続いており見直しの必要性は認識している。

国にも、各園の努力で基準を超えた配置をした場合に公定価格で加算を行う仕組みの創設を要望している。本県では、今年度からは、県の加配支援制度をより利用しやすくするため、対象範囲を私立園の1、2歳児から、公立園や0歳児担当保育士にも拡げている。(今年度は80園)

今後、保育現場や市町の意見等を聴きながら、事業内容の見直しや保育人材の確保を進め、必要な場合に保育士加配が着実に進めるよう努めていく。

答(健康福祉部長) 県内企業の男性育休取得率は昨年度12.9%であり、全国平均の13.97%を下回っている。男性の育休取得推奨を大胆に推進していくことが必要。

福井県では、定時で帰る、それから育休をかえるという意味でかえるプロジェクトというキャンペーンを展開し、テレビCM、先進的取組みを行う県内企業を紹介する番組を放映、県内施設へのポスターの掲示などを実施している。また、経営者の方の意識改革が不可欠なため、包括連携協定締結企業と連携して個別企業への働きかけや、育児・介護休業法改正の内容周知を行っている。今後は経営者を対象とした講演会なども積極的に開催したい。

保育士が足りない!

産後パパ育休制度
(22年10月～)

子育て環境充実に

今後のふく育県としての取り組みは?

9月定例会 一般質問

問い 全国トップクラスの子育て環境を充実させ、「ふく育県」を県民に認知し実感してもらうための今後の取組みの方針は。

答(知事) ふく育県の実現に向けて急いで取り組むことは大きく3点ある。

全国一位となる不妊治療への助成、保育料の無償化の拡大など、子育ての負担を軽くすること。また、全天候型の子どもの遊び場やベビサポトイレなどを多く設置することで、子育てを楽しみたい。さらには、ふく育パスポート、ふく育割を県民に多く普及をして、子育てで得をすることを実現していきたい。

(2点目) **子育てタクシー**や福井県内でなかなか普及していないベビーシッターなど、ちょっとしたところを取り次いでくれる、家庭の中でもやってもらえるようなサービスの充実も、現在関係者の皆様と相

談している。

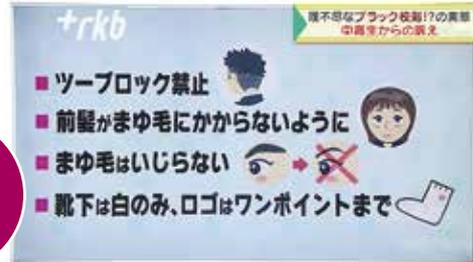
(3点目) 県内の皆さんに十分認知をして実感をしていただくことで、子供たちが子供の頃からそれを見ていて、県内にとどまろうと思う、また、県外に出てもふく育県の福井に戻ってもらう。その意味でも県内でのPRを十分行いながら、ふく育県としてのこれらの普及等を図って行きたい。



子育てタクシー



公立 中学校の 不思議な 校則



6月定例会 一般質問

問い 男子生徒の**ツーブロック**や女子生徒のくるりんぱは校則違反、レギンスもダメ。寒いからと言って靴下2枚重ねもダメ、セーラー服の上にセーターやカーディガンを着てはダメ。

これらは、生徒達自身が、清潔感、かっこよさ、体温管理など自主的に考えて行動していて、生徒の自主性を打ち消すことは、県の教育振興基本計画の方針と違いが生じている。

現在の公立中学校の校則や暗黙のルールに対する県教育委員会の認識を伺う。また、生徒達の自主性を尊重する公立中学校の改革が必要だが、今後、引き出す教育、楽しむ教育の充実をどのように推し進めていくのか。

答(教育長) 各中学校では、校則の運用について指導する教員によって差が出ないように、共通理解のもと指導にあたっている。生徒が、自ら学校生活をよりよく改善することは望ましい姿であり校則も一つの教材として自主的、主体的に話し合っていくよう周知している。

今後は、校則にとどまらず、学校祭などの学校行事や地域でのふるさと学習など、子どもたちが自らつくり上げていく活動を通し、毎日楽しく、通いたくなる学校づくりを進めていく。

問い 公立中学校の生徒全員に、現在の校則に対し生徒がどう感じ、どこを見直したいのか実態調査を行うべき。その結果に基づき生徒達が主体的に校則の見直しができるプログラムを進めるべきではないか。

答(教育長) 校則の見直しは、学校独自で生徒や保護者、教員に実態調査のアンケートを行い、その結果を生徒会中心に話し合いながら進めている。令和3年度県教育課程実施状況等調査では、校則を生徒が主体となって見直したと回答した中学校が7割あった。

今後も学校には、生徒中心に校則について考える機会を設け、生徒が校則を自分のものとしてとらえ、自主的に守っていく指導を行っていく。

6月定例会 一般質問

問い 今年度に入って制定された自治体も60を超えている中、福井県もSDGs未来都市のモデルとして、積極的にその存在を認め、人権を守るべき。性的マイノリティであるというだけで幼少期から様々な苦勞や苦悩をかかえる方が居て、当事者が声を上げられずに、表面化しにくい、生活しづらい社会は「SDGs未来都市」である福井県としてふさわしくない。福井県がパートナーシップ宣誓制度の導入を検討することへの知事の認識は。

答(知事) 賃貸住宅の契約、病院の面会など、同性同士のカップルであっても容易に認められるよう何とかしていくべきだと感じている。

一方で、制度導入となると、どういった具体的なサービスにしていくかということを考える、また職員の研修が必要となる、県民の皆様をはじめ周知をどのようにしていくかという課題もある。先行している他県や県内の市町、越前市では積極的な検討が行われているので、今後市町との話し合いや、当事者・支援団体の話をしっかり伺って、制度の調査・研究をしていきたい。

県内でのパートナーシップ宣誓制度の導入状況

越前市	2022.10.1 導入
あわら市	来年度導入予定
坂井市	導入する方向
勝山市	導入する方向
鯖江市	導入する方向

パートナーシップ 宣誓 制度

県が導入を!

聞くのだ やるのだ つくるのだ もっとイイ!! 福井県を!!

【お知らせ】

のだ哲生 県政報告会のご案内

とき：12月11日(日)
10:00～

場所：出雲記念館 3F
福井市洲2丁目2001



福井県
ののだ哲生

県政報告



コロナ禍で4回に分け、地域の方に県政の直近の課題を報告しました。

視察

Inspection



ここで新幹線車体の点検を行います。

敦賀の発見!



株式会社ピーエス様はプレキャストコンクリートを製造している会社で日本中の高架橋を作っています。



街頭演説 その1



敦賀駅で業務を終えた新幹線の点検や掃除をする車両基地が完成間近でした。



こちらは7編成の車両を休ませる車庫です。



街頭演説 その2



街頭演説 その3

地域連携による 2022 日野川大花火 10.1



今年で3年目となる日野川大花火は、地域の絆を深め、太鼓やBリーグ応援企画としてのU12バスケットボールも共催し、スポーツや文化の推進を図ることができました。



地域 Area



通学路の危険箇所は一刻も早く解決していかなければなりません。



実行委員会や当日スタッフ(約80人)の裏側の活力があるからこそ、花火が上がります。

